



〔海の状況(9/21~10/20)〕

神子表面水温……期間全体をとおしてはなはだ高め(平年より2°C程度高め)からかなり高め(平年より1.0~1.5°C程度高め)で推移した(図1)。

米ノ表面水温……期間の中頃まではなはだ高めで推移したものの、後半になるとかなり高めからやや高め(平年より0.5~1.0°C程度高め)で推移した(図2)。

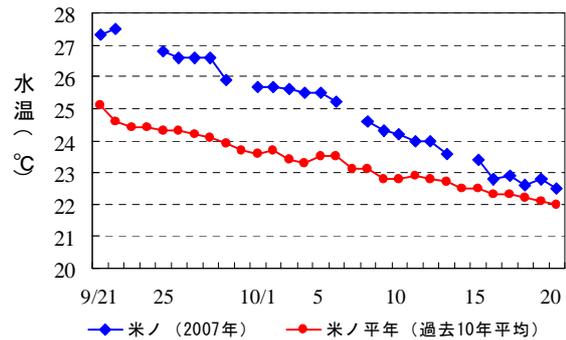
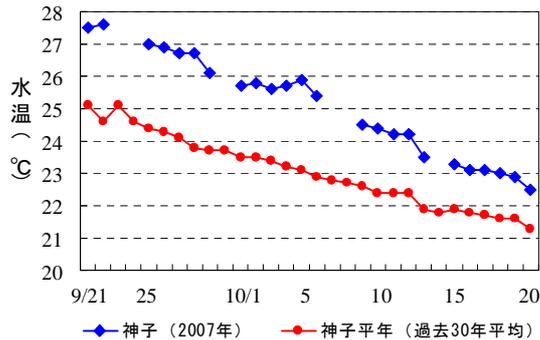


図. 1 若狭町神子地先における表面水温の推移

図. 2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

100m深水温……若狭湾沿岸域には15~16°C台の水域が広がっていた。

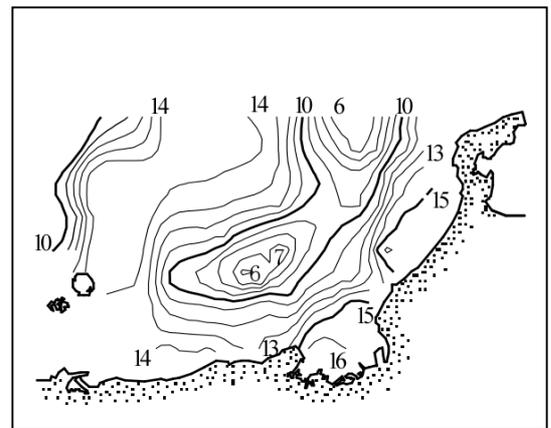
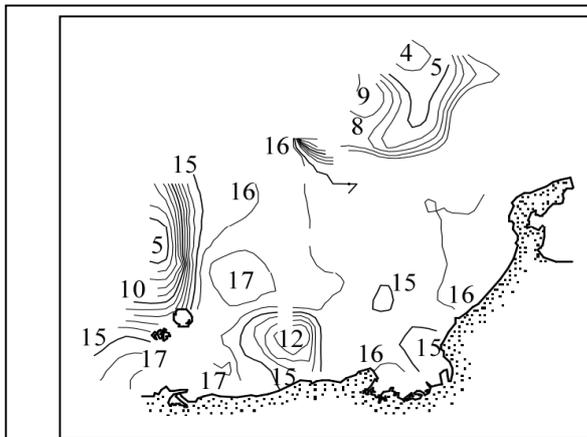


図. 3 2007年10月上旬の100m深水温

図. 4 2006年10月上旬の100m深水温

資料：日本海漁場海況速報〈日本海区水産研究所HP〉

平成19年度第3回日本海海況予報

日本海区水産研究所が平成19年10月~12月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介します。

- 山陰若狭沖冷水域は、9月の規模は小さく、離岸し、今後の冷水域の張り出しは“弱め”で推移するでしょう。
- 対馬暖流域の9月の表面水温は、ほぼ全域で“平年並み”~“やや高め”で経過しており、今後は“やや高め”で推移するでしょう。
- 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部において“平年並み”で経過し(7~9月平均)、今後は“平年並み”で推移するでしょう。

(瀬戸 久武)

〔漁の模様〕

2007年9月の県内の総水揚量は1,050tで、2006年同月を22t下回った。アジ類（2007年；95t、2006年；58t 以下同じ）、シイラ（133t、38t）、サワラ(285t、279t)、アカガレイ（80t、45t）、ケンサイキカ(20t、7t)等は上回ったものの、イワシ類(0.1t、19.8t)、サバ類(6t、40t)、ブリ類(69t、186t)、ヒラマサ(1t、25t)等は下回った。

漁業種類別の状況

定置網 ……アジ類、シイラ、サワラ等は上回ったものの、イワシ類、サバ類、ブリ類（特にツバス銘柄）、ヒラマサ等は下回り、全体で前年を52t下回った。

底びき網 ……その他カレイ、アカエビ等が下回ったものの、キダイ、アカガレイ、ニギスなどが上回り、全体で前年を32t上回った。

釣り・他 ……ケンサキイカ、タチウオ等は上回ったものの、ブリ類、アマダイ、メバル類、アオリイカ等が下回り、全体で前年を1t下回った。

〔県内主要漁業の9月の漁獲量〕

(調査対象市場：三国・越廼・敦賀・早瀬・小浜の各漁連支所、福井市・越前町・若狭高浜の各漁協)

(単位：kg)

定置網			
魚種	2007年	2006年	97-06平均
イワシ類	133	19,844	27,778
アジ類	94,863	56,088	78,312
サバ類	5,388	39,701	36,958
マグロ類	175	86	4,881
カジキ類	16,913	7,834	12,261
カツオ類	1,844	2,196	6,975
ブリ類	69,016	182,239	173,787
ヒラマサ	589	24,413	14,434
シイラ	132,639	38,418	65,727
サワラ	285,387	279,023	132,287
マダイ	1,226	2,587	3,190
スズキ	1,615	676	993
カマス	10,759	9,429	25,246
フグ類	7,334	6,028	18,952
アオリイカ	6,031	6,880	10,924
ケンサキイカ	1,833	2,400	4,759
ソデイカ	219	1,448	5,018
その他	6,043	14,866	21,718
合計	642,008	694,156	644,200

底びき網のつづき			
魚種	2007年	2006年	97-06平均
その他エビ	3,555	4,993	6,177
その他	104,536	90,884	85,647
合計	334,734	303,037	302,411

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2007年	2006年	97-06平均
アジ類	620	947	953
サバ類	137	265	225
ブリ類	372	4,214	1,137
ヒラマサ	3	226	700
シイラ	0	26	127
サワラ	109	114	46
マダイ	2,591	3,713	4,419
キダイ	3,953	5,680	3,894
アマダイ	3,101	5,726	5,620
スズキ	360	454	372
ヒラメ	612	800	810
タチウオ	268	69	281
アナゴ	159	396	347
メバル類	1,258	2,841	3,257
キス類	796	342	404
スルメイカ	41	2,941	12,041
アオリイカ	14	3,162	5,169
ケンサキイカ	16,514	4,145	13,750
ソデイカ	6,574	6,920	38,930
タコ類	6,553	7,813	6,086
その他エビ	378	493	691
その他	28,931	23,443	32,937
合計	73,344	74,730	132,197

底びき網			
魚種	2007年	2006年	97-06平均
マダイ	1,156	1,756	3,226
キダイ	14,182	5,820	9,765
アマダイ	1,240	1,181	1,660
アカガレイ	80,134	44,570	73,452
その他カレイ	42,469	76,962	69,062
アナゴ	2,682	2,688	4,266
ハタハタ	1,510	3,288	1,666
ニギス	20,964	3,620	15,423
ケンサキイカ	1,215	433	802
タコ類	15,637	9,913	3,960
アカエビ	65,586	70,679	48,133

総計	2007年	2006年	97-06平均*
	1,050,086	1,071,924	749,939

* まき網による漁獲量を含む。

〔近府県の漁模様〕

(9月下旬から10月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。)

石川県 …… 定置網 …… フクラギ197kg、アジ62kg、サワラ106kg、アオリイカ22.5kg

兵庫県 …… 定置網 …… アジ346kg、シイラ128kg、サワラ32kg、カマス26kg

鳥取県 …… まき網 …… マイワシ1.7t、マサバ5.5t、マアジ11.5t、ブリ類3.7 t

(瀬戸 久武)

アオリイカの養殖試験について

195号ではアオリイカ種苗生産の取り組みについて紹介しましたが、今回はその後の経過および養殖試験の取り組みについて紹介します。

今年の種苗生産試験は、7月初旬に孵化したイカを用いて開始し、9月初旬に平均外套長55.6mmの種苗を277尾生産することに成功しました。この間の生残率は29%と比較的高い値が得られました。飼育初期は活きた餌が必要でしたが、3週間を過ぎた頃からは死んだ魚でも飼育することが可能であることが分かり、種苗の量産化に向けて大きく前進しました。孵化後1ヶ月半を経過した頃には外套長が35～40mmとなり、カタクチイワシを食べようになりました。以降大きくなるにつれてアジも食べるようになり、イカもみるみる大きくなっていきました。そして、10月中旬には外套長90～140mmにまで成長し、現在陸上水槽と生簀で飼育中です。

最初はどのような餌を与えればよいのか全く分からず、手探り状態で始めた種苗生産でしたが、無事に生産できてほっとしています。また、天然のアオリイカを用いた養殖試験も行っています。イカは釣りで漁獲したものです。まだ試験を開始して2週間ですが、なんと、体重は1.5倍(200g→300g)に増加していました。まず魚類ではあり得ない成長の良さに驚いています。餌は、生簀の周りにはいる活きた小アジを捕まえて与えているので経済的です。

アオリイカは非常に気まぐれな生き物です。お腹が減っているはずなのに餌を食べないとか、食べないと思っけていても1分後には急に食べだすとか、餌をつかんでもすぐに放したり、餌を食べるかと思えば近くを通り過ぎるだけとか。少し手は掛かりますが、近くに立つとみんなこっちを向いたりするかわいい生き物です。

この試験結果がでるのが楽しみです。

(畑中 宏之)



写真1 飼育中の人工生産イカ



写真2 生簀で飼育中の天然イカ



写真3 イカの餌に用いる小アジ

福井県におけるズワイガニ「越前がに」の資源状況について

ズワイガニ漁業が11月6日に解禁されますので、福井県におけるズワイガニの資源状況について報告します。

漁獲動向：福井県機船底曳網漁業協同組合の集計による漁獲量の経年変化は、最低であったS54年度以降は、増加傾向にあり、近年は600t前後で推移しています。このことは、漁業者が実践しているズワイガニ資源管理の成果と考えています(図1)。

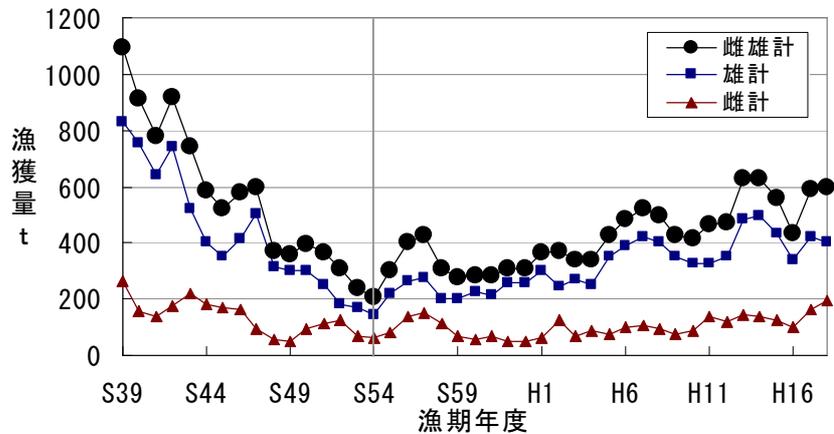


図1 ズワイガニ漁獲量の経年変化

卓越年級群：福井丸のトロール網調査で卓越年級群（他の年に比べて特に多い加入量の年級群）が確認されています。H14年の調査で卓越年級群が確認され、この群が漁獲対象となったH17、H18に漁獲量が増加した要因のひとつになったと考えられました。また、H18、H19年の調査でも卓越年級群が確認されており、この群が漁獲対象となるH21以降に有効活用できるように保護することが、漁獲量、漁獲金額の安定に重要であると考えられます(図2)。

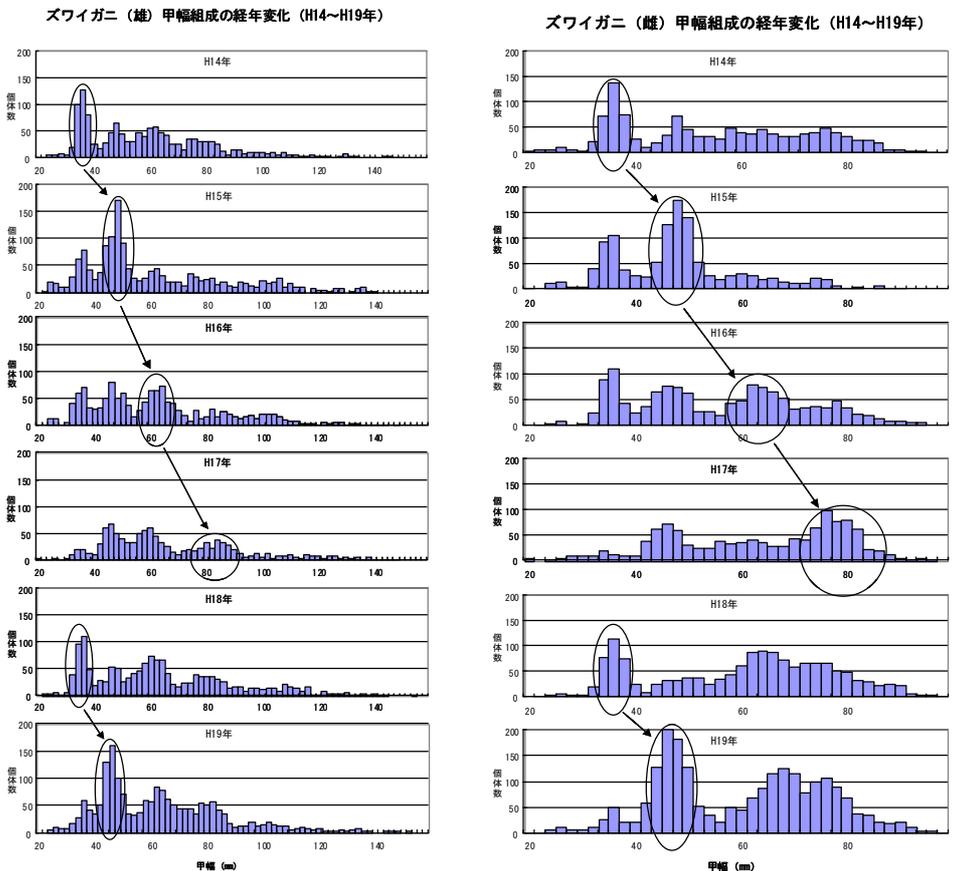


図2. 福井丸トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成

推定資源量・予測漁獲量：福井丸のトロール網調査から漁獲対象となるズワイガニ資源量推定と本年度の漁獲量予測を試みました。雄ガニ

の漁獲対象の推定資源量は昨年並みの2,209 tと算出され、予測漁獲量も昨年並みと予想されました。また、雌ガニの漁獲対象の推定資源量は昨年よりやや多い1,216 tと算出されましたが、保護礁近辺に多いなど分布に極端な偏りがあり、保護礁による保護効果や漁場による差が生じる可能性があることから、予測漁獲量は昨年並みと予想されました。

(家接直人)